

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年3月2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970700161		
法人名	社会福祉法人 栲の木福祉会		
事業所名	グループホーム しらふじ		
所在地	高知県四万十市右山1973番地2		
自己評価作成日	平成24年1月16日	評価結果 市町村受理日	平成24年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでは、「地域の中でその人らしく生き生きと光り輝ける環境づくり」「お互い信頼し合えるなじみの関係づくり」の二本柱を理念とし、入居者、スタッフが共に支え合いながら、毎日の生活を送っている。食事のメニューも入居者の好みを聞きながら献立を考え、できる範囲で一緒に食事の準備や片づけをし、楽しい食事の時間を過ごすなど、入居者主体の暮らしを支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3970700161&SCD=320&PCD=39
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成24年2月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域の高台にある県立病院跡を利用し、法人の養護老人ホームと一体となった建物の一角で、敷地内には法人のケアハウスや協力医療機関があり、これらの併設施設と合同のイベントや防災訓練を実施しており、夏祭りやバザーには多くの地域住民の参加を得ている。また、事業所の敬老会やクリスマス会を通して、保育園児や小学生と触れ合ったり、ボランティアとも交流している。管理者をはじめ職員は、利用者一人ひとりの残存能力や状態等を把握しながら、その人らしく地域で暮らすことができるように日々取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

ユニット名: GHLらふじ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく生き生きと生活できるよう、職員会やカンファレンスで理念を振り返り、改善点や具体的なケアについて管理者、職員共に意思統一を図りながら日々実践している。	法人の理念を基に、地域密着型サービスを目指す事業所独自の理念を作成している。目につく場所に掲示するとともに、ケア検討会などの際に理念を振り返りながら日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の養護老人ホームと合同の夕涼み会やバザーを通じて地域住民と交流したり、事業所のクリスマス会のほか、小学校、保育所の交流会に参加し、子ども達と触れ合う機会を設けている。	地域のリサイクル活動に協力したり、併設の養護老人ホームと合同の夏祭りやバザーには多くの地域住民の参加を得ている。また、事業所の敬老会やクリスマス会のほか、学校行事等を通して保育園児や小学生、ボランティアと交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の行事に地域住民の参加があり、利用者との交流を通じて、認知症に関する理解を深めてもらうようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議で日頃の状況等を報告し、質問や要望を受けることによりサービス改善や向上につなげるようにしている。	事業所から活動状況等について報告し、参加委員と意見交換をしながら運営に活かしている。評価結果や家族会の意見なども直近の会議で報告するとともに、議事録は家族にも配布している。	会議の運営に当たっては、毎回、事業所から議題を提案したり、議題の内容に応じて地域の関係者に参加を依頼するなど、さらに、今後の運営に活かしていくための工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	折に触れて、事業所の実情やサービスの取り組みについて伝えている。また、何かあれば報告、連絡、相談等を行うなど、協力関係を築いている。	担当課や地域包括支援センターとは、運営推進会議や日頃の報告、相談などの機会を通して事業所の運営や個別ケアに関する助言を得るなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんなことが身体拘束にあたるのかマニュアルで学習したり、人の尊厳を考える研修会に参加するとともに、伝達講習を通じて職員全員で考える場をつくり、職員の理解を高め、拘束をしないケアを実践している。	身体拘束に関する外部研修会や勉強会を通して職員の理解を高め、拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉遣いなど気になる対応がみられた場合は、管理者から個別に注意している。また、身体拘束をしないことや、日中は玄関に施錠しないことによるリスクについて、家族に説明している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止等の研修会に参加し、研修で学んだことを全職員に報告したり、勉強会等を通じて職員の意識向上と防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度についておおまかに理解しているが、さらに、制度の研修会に参加し、学習するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は、契約内容や事業所の方針等を時間をかけて説明しており、質問等にも理解と納得が得られるまで十分に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時などに意見や要望等を気軽に言ってもらうように声かけしているが、今のところ、これといった意見は出されていない。家族会では家族のみで話し合う場も設けている。また、日常生活の関わりの中で利用者の意見や要望を汲み取り、職員会で話し合っている。	家族の面会時や電話連絡などで意思疎通を図ったり、敬老会に合わせて家族会を開催し、家族のみで話し合う機会も設けている。日頃、運営に関する意見等は特に出されていないが、家族会では、運営推進会議の開催回数や通院支援などについて話題にあがり、運営推進会議にも報告している。	家族は身内が世話になっていることから意見等を言い出し難いことを理解し、これまでの接遇向上や情報提供に加え、家族との支え合いにも関連づけながら、声かけやアンケートなど持続的に取り組む工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、職員会やカンファレンスを行い、職員それぞれの意見を聞き、問題点等を話し合い、運営に反映させている。	職員会のほか日々の話し合いの中で、職員の意見や提案を汲み上げ、日勤時間帯の体制強化や畳部屋の敷物など、ケア改善に向けて検討し、できることから運営につなげている。また、職員は、行事委員会や感染症対策委員会、アルバム係、美化係などを通して運営に参画している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務について、実績や努力していることを把握し、向上心を持ち、働きやすい職場環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務に支障がないように配慮しながら、法人内外の研修会へ参加するように勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との勉強会や他事業所との交流会で意見交換等を行い、質の高いサービスの提供を意識しながら取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人に面接し、生活状況や思いなどを聞き、そのことを大切にしながら事業所で安心して暮らしていけるようアクティビティーなどで本人との関わりをもち、信頼関係を日々築き上げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から本人の生い立ちや生活環境等を聞くとともに、家族の要望や不安なことなどを傾聴し、事業所としての対応方針などを十分説明し、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の要望、これまでのサービス提供関係者から情報を得ながら、事業所での対応や、状況に応じて地域包括支援センターに相談、調整するなど、他のサービスも含めて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事などを一緒に行いながら、利用者から教えてもらったり、助けてもらったりして頼りにしているという場面をつくるなど、共に暮らす者同士の関係を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に行事に参加してもらい、本人と深く関わる機会を設けた、家族でないとできない役割を依頼するなど、共に本人を支え合っていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブに合わせて昔から利用している美容室に寄るなど、関係が途切れないように支援している。	友人、知人の面会を受けて旧交を温めたり、ドライブがてら行きつけの美容院などに出かけている。今後も、外出支援と関連づけた対応や、家族の協力も得ながら、利用者一人ひとりがこれまで培ってきた人や場所とのつながりが持てる取り組みが望まれる。	利用者一人ひとりの馴染みの関係を再度確認しながら職員間で共有し、さらに、その人らしい地域での暮らしを支えていく取り組みを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の家事を行うなかで、自然と利用者が集まり、協力し合い、会話を楽しみながら関わり合っていく関係を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、手紙を出したり、電話等で連絡を取り合うほか、面会に来てれることもあるなど、これまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や行動などから、暮らし方の希望や思いを把握している。困難な場合は、表情や態度等からその人の思いを組み取るように努めている。	職員は、利用者一人ひとりの生活歴や職歴などを共有し、日常の利用者との関わりの中で、その思いや希望を把握している。困難な場合は表情や声かけなどへの反応を観察しながら、思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、以前にしていた仕事や趣味等を尋ねるとともに、入居後も、日々の関わりの中で情報を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らしを観察しながら、心身の状態やできること、できないことなどを総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの意見をもとに、関係者のアイデアも反映しながら計画を作成している。また、本人がより良く暮らせるための課題ケアについて、職員会やカンファレンスで現状を確認し、変化があれば見直している。	介護計画は3カ月を基本としている。担当職員が毎月モニタリングを行うとともに、日頃の関わりの中で、利用者、家族の意向を確認し、計画作成担当者を中心にカンファレンスを行い、介護計画を作成している。また、利用者の状況の変化等に応じてその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践と結果、気づき、工夫などを個別に記録したり、引継ノートを利用して情報を共有しながら、日々のケアにつなげたり、月1回のカンファレンスに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院やその他の専門医への通院に際し、家族に替わって付き添いをしたり、その時の本人や家族の状況に応じて職員の勤務割を変更するなど、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生や保育園児と行事を通しての触れ合いや、ボランティアの訪問など、地域と交流していくなかで、楽しく生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院への定期受診以外にも、本人や家族等の希望に沿って他の医療機関で適切に医療が受けられるよう支援している。	入居時に医療連携体制について説明し、利用者、家族の意向に沿って隣接の協力病院をかかりつけ医としており、通院には管理者が同行している。眼科、歯科、整形外科等の専門医への通院支援も家族の都合に応じて殆ど管理者が対応している。受診結果は必要に応じて家族に連絡し、職員間は業務日誌や引き継ぎノートで共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回、法人の看護師の訪問があり、気づいたこと等があればその都度相談している。また、隣接の協力病院に何かあれば、いつでも相談できる関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、常に病院や家族と連絡を取り、情報交換を行いながら早期退院に向けた相談などもしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りの指針を説明し、家族から同意を得ている。終末期を迎え、家族や主治医と方針を共有し支援した事例があり、課題等も見出し、関係者と話し合っている。	入居時に重度化や看取りの指針を説明し、同意を得るとともに、その時点の意向についても確認している。これまで看取りの事例はないが、状況に応じて家族の意向も尊重し、方針を共有しながら終末期における支援に取り組んだり、職員の看取りに関する研修もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署の職員から応急手当等の講習を受けるなど、実践できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接している法人の養護老人ホームや協力病院と合同で災害に対する訓練を行っている。飲料水や食料、排泄用品などの備蓄もしている。	年に2回、併設の養護老人ホームや協力病院と合同の防災訓練を実施している。訓練への地域住民の参加は得られていないが、同敷地内の法人のケアハウスは地域の避難場所として指定されている。事業所の非常食や飲料水の準備をしている。	地域ぐるみの災害対策が課題となっていることから、運営推進会議で、事業所と地域との関わりや複合施設の防災体制なども踏まえて、今後の協力の在り方などについて話し合うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう職員会等で話し合い、日々のケアの中で、声かけや対応について徹底している。	利用者の尊厳を大切に、排泄や入浴、日々の関わりの中で、利用者の誇りやプライバシーを損なうことのない言葉かけや対応について、職員に周知している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表現し、自己決定ができる場面づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を取り入れ、一人ひとりのペースに合わせた生活が送られるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その時の季節にあった衣類を着用するよう衣替えを行ったり、髪の手入れも定期的にかットするなどして身だしなみやおしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたいものを聞き、メニューに取り入れている。調理の準備や片づけなども利用者の負担にならないよう、役割を担ってもらっているようにしている。	利用者に食べたい物を聞き献立を考え、職員の買い出しに利用者も同行している。また、調理の下ごしらえや盛り付け、下膳などを利用者の能力に応じて職員と一緒にしている。職員も同じ物を食卓で一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量は毎日チェックし記録している。主菜、副食は栄養のバランスを考慮した献立となるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにて口腔ケアを実施している。毎週月曜日には義歯の洗浄日とし、清潔管理をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を把握し、早め早めに声かけや誘導を行うことにより、失敗が少なくなるなど、排泄の自立に向けて支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄するよう声かけや誘導支援をしている。継続的な支援により失敗が少なくなったり、夜間のみポータブルトイレを使用するなど、個別に応じた支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や水分の摂取に工夫したり、廊下の歩行や体操等で身体を動かす機会を持つなどして、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調も含め、入浴順番の希望を聞きながら入浴支援を行い、2日に1回は入浴できている。	利用者の希望に沿って入浴支援をしており、入浴を嫌がる場合は無理強いをせず、声かけのタイミングや職員が交替するなどの工夫をしながら、利用者は全員、2日に1回は入浴できている。また、体調等に応じて清拭するなど柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調等に応じて随時、休息してもらったり、日中の活動量を増やすなど、夜間の安眠につなげるとともに、夜間帯の消灯や物音を立てない等の配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬処方内容をいつでも確認できるようにしている。服薬変更があった時は、業務日誌や引継ノート等で共有するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しやたたみ、食事の準備などの家事で得意なことに取り組んでもらったり、ぬり絵など好きなことを楽しめる場面づくりをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	事業所周辺を散歩したり、ドライブや買物に出かけている。全体行事として喫茶店に行ったり、季節に応じて花見や行楽などに出かけている。また、近くの方は家族と一緒に自宅に出かけたりしている。	日常的に、広い敷地内や周辺を散歩したり、玄関先で外気浴をしている。利用者の希望に沿って買物やドライブなど、柔軟に行うとともに、季節に応じた花見や行楽など、車椅子の利用者も一緒に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所で行っている。外出時や買物の希望があれば職員同行し、一緒に金銭授受を行うなど見守りながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物等が届いた時には必ず御礼の電話をするようにしている。また、本人の希望に応じて電話したり、手紙や年賀状を書く支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁に季節に応じた飾り付けを行い、その時の季節を感じることができるよう工夫したり、室内の温度も季節毎に調節している。	リビングには自作の干支飾りや、利用者の書道の作品、共同制作をした日めくりカレンダーなどを貼ったり、玄関ホールや廊下にも行事の写真や落ち着きのある壁飾り、生け花などで、季節感や生活感を採り入れている。また、窓際の長椅子や畳の座で、ゆっくりくつろげるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれのやりたいことをそっと見守り、外を眺めたり、絵本を読んだり、歌を歌ったり、おしゃべりしたり、のんびり過ごせる居場所づくりに工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真、本人の作品、家族からの手紙や贈り物などを置き、心和むようにしている。	居室は、ベッドや押し入れ、収納棚が備え付けで、畳敷きとフロアの部屋があるが、利用者のADLの状態から洋式に使用している。利用者の馴染みの品物や家族写真、ぬり絵や書道作品などで、それぞれの生活が窺われる。また、壁掛け時計などの事業所からの誕生祝いの物品も置いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	補助具は、個々に応じたものを専門の方の意見を聞きながら購入している。居室は、ベッド等の配置を考え、できるだけ自立した生活が送れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				